



C2021-07 涙を変えて喜びに

[今月の聖書]

詩篇 (126:1-6)

126:1 主がシオンの繁栄を回復されたとき、われらは夢みる者のようであった。126:2 その時われらの口は笑いで満たされ、われらの舌は喜びの声で満たされた。その時「主は彼らのために大いなる事をなされた」と言った者が、もろもろの国民の中にあつた。126:3 主はわれらのために大いなる事をなされたので、われらは喜んだ。126:4 主よ、どうか、われらの繁栄を、ネゲブの川のように回復してください。126:5 涙をもって種まく者は、喜びの声をもって刈り取る。

126:6 種を携え、涙を流して出て行く者は、束を携え、喜びの声をあげて帰ってくるであろう。

マタイ (9:35-38)

9:35 イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやすくなった。9:36 また群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれた。9:37 そして弟子たちに言われた、「収穫は多いが、働き人が少ない。9:38 だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい」。

ヘブル 5:7 キリストは、その肉の生活の時には、激しい叫びと涙とをもって、ご自分を死から救う力のあるかたに、祈と願いとをささげ、そして、その深い信仰のゆえに聞きいれたのである。

ヨハネ 12:24 よくよくあなたがたに言うておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。

第二テモテ 4:2 御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。

お元気でお過ごしでしょうか。今月は「涙を変えて喜びに」と題して、福音を宣べ伝える喜びについてお話いたします。人生において最も尊い事は、愛する人、友人、家族や知人に福音をお伝えすることです。言葉を変えて言えば励ますことであり、導くことであり、究極的な希望を伝えることなのです。物質的・金銭的に人に与える事は誰にでもできることではありません。しかし心の内に満ち溢れる喜びと信仰を伝える事はあなたにもできます。しかし、まずあなた自身が確信と喜びに満たされている必要がありますね。それは聖霊の働きです。それは涙の種まきであり、喜びの収穫なのです。

詩篇 126 篇は「都もうでの歌」と言われ、120-134 篇の 15 篇のエズラによって編纂された詩篇の一つです。70 年のバビロン捕囚からペルシャ王クロスによって解放され、祖国イスラエルに帰還した人々の喜びの歌です。多分 BC530 年頃のものと思われます。しかしそれはイスラエル民族の回復の歌であるばかりでなく、今日まで教会の回復の歌として読まれてきました。それはまた同時に、私たち一人一人の属している群れ、家族、コミュニティーの回復の歌でもあります。

信じて祈り求める時、「神は大いなることをなしたもう」と歌うことができます。今あなたは大いなる神の御業を見て喜んでますか。感謝していますか。溢れ出る思いを持って福音を宣べ伝えていますか。

福音書はイエス・キリストが涙と祈りをもって人々を救うために戦っておられたことを記録しています。私もまたかつて全国を駆け巡って伝道していた日々がありました。何百人という人びとが一度にイエス・キリストを信じ、新しい人生を踏み出した出来事を見ました。絶望的な状況の中にあつた方が、イエス・キリストを信じ、聖霊に満たされ、生まれ変わって活躍された方がいました。しかし今激しい涙と祈りの伝道は火が消えたかのように思える昨今です。

お互いに与えられている時間が次第に短くなりつつある今日、また世界の歴史が終末に向かい、不安な未来に向かっている現代において、私たちはもう一度福音を伝える涙と喜びを体験したいと思うのです。①あなたは救われていますか。②あなたは聖霊に満たされていますか。③あなたは伝道していますか。この 3 つの問いは 90 歳になって今も元気で活躍している瀬尾弘志先生の言葉です。砂漠が雨季になると突然大河になるネゲブのように、あなたの人生の最も意味のある時を迎えられますようお祈りいたします。

小田 彰

小田彰先生

2021年6月21日

主の聖名を崇めて賛美致します。ハレルヤ

超教派「祈りの家」牧師 瀬尾弘志

本日、尊い献金を「祈りの家」の為に献げいただき心より感謝申しあげます。独立開拓伝道を行っておりますが、先生が献げてくださった献金によって凡ての必要が満たされ、主の聖名を崇めております。本当に有り難うございました。

「今日の聖書（詩編）ダビデの宝石・光は闇に輝いている」を読ませて頂き感動しました。また、筆文字で達筆なお手紙を頂き、とても励まされました。清水様、佐藤様、藤井様、稲垣様の為にも毎日お祈りさせて頂いております。小さい私の為にも続けてお祈り下さい。

今年も主に支えられ守られて祈りの生活を続けて来ることができて感謝しております。これも皆様のお祈りによることを思い聖名を崇めております。私も家内も老齢になりましたが、特別に悪いところがなく過ごしております。私は90歳、家内は87歳になりますが、新しい祈りの友も与えられ、「市川朝禱会」に出席して色々な人に出会い、奉仕をさせて頂いて感謝しております。今年も年の初めから年の終わりまで、日本と外国の神学校教会、教職、信徒の為に祈りさせて頂いて聖名を崇め、感謝しております。新しい年も先生と教会のために執り成しのお祈りを毎日続けて参ります。小さいお祈りですが。新しい年も聖歌に「腰が立たずともこの手は緩めず」とあるように、毎日欠かさずお祈りすることにしております。90歳になる小さい私たちの為にも覚えてお祈り下さい。

私は下記の御言葉が与えられ、日本にリバイバルが起こされる事をお祈りしています。

- ①「年若き者も疲れて倦み、盛んなる者も衰え劣ろう。然はあれど、エホバを待ち望む者は新たなる力を得ん」イザヤ40:30。
- ②「萬軍のエホバ宣ふ。是は権勢に由らず、能力に由らず、我が霊に由るなり」ゼカリヤ4:6。
- ③「エホバは善なる者にして艱難の時の要害なり。彼は己に依り頼む者を善く知り給ふ」ナホム1:7。
- ④「天地は過ぎゆかん。されど我が言葉は過ぎ逝くことなし」マルコ13:31。
- ⑤「凡て祈りて願うことは、既に得たりと信ぜよ。さらば得べし」マルコ11:24。
- ⑥「何事にてても我が名によりて、我に願わば、我これを成すべし」ヨハネ14:14。
- ⑦「願わくは汝天を裂きて降り給え。汝の御前に山々震い動かん事を」イザヤ64:1。

15歳の8月30日、秋木会館で開かれた賀川豊彦先生の特別集會に出席して入信を決意し、教会員が私の家に来られて、教会に来るように誘って下さり、能代教会に姉と一緒に出席し、16歳の3月28日のイースター礼拝で、丹波源一郎牧師によって洗礼を授けて頂き（12使徒会結成）、19歳で献身し、卒業後、千葉県の開拓伝道で3教会、沖縄で開拓伝道で3教会、30年間、日本ホーリネス教団で奉仕し、その間、海外宣教（南北米12ヶ国、東南アジア7ヶ国）の奉仕をしてきました。その後、日本基督教団の教職となって34年、釜石大渡教会、熊本城東教会、能代教会で奉仕させて頂き感謝しております。「終わりの時にわが霊をすべの人に注ぐ…老人は夢を見、若者は幻を見る」（ヨエル3:1）、「わたしの僕やはしためにも、その時には、わたしの霊を注ぐ」（使徒言行録2:18）。聖霊は僕（献身）とはしため（従順・謙遜）に注がれる事を示されました。

「大きな地震があり…方々に（世界的な）疫病（コロナ）が起こり…それはあなたがたにとって証しをする機会となる」（ルカ21:10）。コロナ禍は福音が世界に拡大して多くの人々が救われるリバイバルの始まる時であることを教えられました。そのために先生の計画が用いられることをお祈りしております。次第に社会（世界）が複雑に変化し、悩みが深刻になりつつあるように思います。これから福音を伝える最高のチャンスだと考えています。今後、成長する教会と信者が少なくなって閉鎖する教会が目立つ時代に成るような気がします。信仰の質（伝道意欲）が問われる時代に成るのではないのでしょうか。

私が信仰を持った時代は、聖会で大きな声で賛美し、お祈りしていました。また、恵みの座で大きな声で必死に、涙を流して、真剣にお祈りしました。また、どこでも、自由に訪問も、集會も、個人伝道も、手を置いて祈ることも、また福音を伝えることができる恵みの時代でした。更に、世界（南北アメリカ12ヶ国、東南アジア7ヶ国）で自由に福音を伝える恵まれた時代でした。この恵まれた時代に、私は日本の沖縄から北海道の縦断伝道で思う存分自由に福音を語り続けてきました。本当に恵まれた時代に伝道できたことを感謝しております。勝手なことを思い出すままに書きました、主に在ってお赦し下さい。